



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川清志  
 題字 島崎洋路

### 『スミに置けない』 通年コース第十五・十六回開催報告「炭焼き等」

冷蔵庫に入れたり、炊飯器に入れたり、浄水器に入れたり、水槽に入れたり、家の飼料に入れたり、床下に敷いたり、畑に撒いたり、ラーメンに入れて食べたりと、炭の利用法、効能は十指に余りませんがやはりわれわれに一番馴染み深いのは、焼肉をしたり、さんまを焼



林試式といわれる移動式炭化炉 1200 型

いたりではないでしょうか。天気の良い日曜日、庭に七輪を出して炭を熾し、さんまを焼いて食べればさぞかし、と思います。

そんな、スミに置けない炭を移動式炭化炉とドラム缶で焼いてみました。移動式炭化炉は国立林業試験場(現在の森林総研)が開発したステ



そのへんの柴とクズ蔓で煙道造り

ンレス製のもので、毎年信州大学からお借りしてきます。軽トラック山盛り一杯分くらいの炭材を入れることが出来、最大の魅力は早く簡単に炭が焼ける、という点ではないでしょうか。普通の炭窯で炭を焼く場合、およそ一週間かかるのですが、この炭化炉は炭材を詰めて点火すれば、遅くも丸一日後にはもう炭を取り出せると言う早さです。また、分解すれば軽トラで楽々移動できるとい

うのもいいですね。ただお値段が六十万円と聞くと、ウ

ドラム缶では小屋回りに



金田さんの復帰後初仕事、炭化炉に点火

たくさん転がっていた孟宗の竹炭に挑戦してみました。竹炭は木炭に比べ着火温度が高く、温度の管理が難しいので、森林塾では数回チャレンジして一度成功したのみでしたが今回はなぜか成功

した。

とも二十四時間ほどで炭にしてしまうので良い品質のものではありませんが、あわせて約八十キロの炭の出来上がり。焼肉やさんまを焼くのびびったりの、熾しやすい炭です。是非一度ご利用あれ。

説明。炭についての説明(島崎先生)。炭焼き方法の説明

9 時30分 小屋裏に穴を掘ってドラム缶窯をセッティングし、焚き口を残して土をかぶせる。奥の煙突側をやや下げておくことが肝要。つづいて小割りにして節を取った孟宗竹をびっしり仕込み

10 時15分 点火。竹酢液採集用の長煙突もセッット完了。しばらくは焚き口から熱い空気を団扇で送る。

移動式炭化炉のセッティングは、まず島崎先生がレベルを使って水平をとる。保科先生はその辺りからクズの蔓を調達してきて中央の煙道づくりに。松の炭材をこちらも三段目までびっしり詰めて

松葉の焚き付けを乗せて

11 時20分 金田さんの点火。塾の復帰後の初仕事で

12 時 昼食。移動式炭化炉は

3 時30分 山小屋に集合。先生方のあいさつ、日程

1 時 午後の部開始。ロゴソールによるチェインソー製材を島崎先生に教えてもらうチームが一つ。伐倒チームは二班に分かれて小屋裏で伐倒の復習。しばらくのブランクでなんだか軒並みかかり木にしてしまったような。おかげでかかり木処理の練習もできた。

ときどき窯を点検。順調に温度が上がっているようだ。炭材は割って一ヶ月以上乾かしてあるので木酢液の出具合は例年に比べやや少ない

4 時 江上さんは押し入れ用のこの板を製材機で完成させたようだ。伐倒チームも小屋に戻り本日終了。とりあえず解散。小野沢幹事のもと、買出



すのこの材料をロゴソールで挽く



保科山林カラマツ保育展示林

し係、会場係、調理係などに分かれて忘年会の準備が始まる

**6時ころ** 保科先生差し入れの風呂吹き大根など、突き出しの用意が出来、忘年会が始まる。大鍋で沸かしている湯がガソリン臭い。使ったペットボトルが怪しい。肉やきのこの投入前だったので大事に至らずひと安心。

お酒やつまみの差し入れもたくさんあってごちそう様でした。夜は更けていくが、火の番も忘れずに

**8時45分** ドラム缶窯の窯

止め。蓋に隙間が出来て中は真っ赤。慌てて全部をどろで埋める

**11時20分** 点火から約12時間、移動式炭化炉のほうも窯止め。こちらも空気穴すべてが真っ赤になっていて全く順調に炭化している模様

**28日(日)**

**8時30分** 山小屋に集合。さっそく窯出しにかかる。移動式炭化炉、ドラム缶ともに大成功。前者は65キロの松炭、後者は15キロの竹炭ができた。そして2リットルのペットボ



受口の修正。これが大事

トルにあわせて数本の木酢液。それぞれ欲しい方に持っていったらう

**10時** イントラ川島のもとに数名の伐倒希望者を残し長谷村保科山林見学に出発。途中コンビニで弁当を調達して

**11時** 三峰川支流の小黒川沿いを数キロさかのぼり保科先生の保育展示林に到着。カラマツの人工林は日本が世界に先駆けて行っていて、また長野県は日本の先進地でもあるので、ここは世界一のカラマツ人工林の一つであるということが出来ます。事実、今までに日本各地から多くの関係者が見学に訪れています。林齢は40前後ですがもつとも薄いとところはヘクター当たり二百五十本です。し

ばらくは手入れの必要が無いようにと最近の施業でここまで落としたさうです。

ミズナラの純林やその上部にある樹高30メートルちかいカラマツ林も見せてもらう。快晴だけれど標高は千二百メートルを超えているのでやはり風は冷たい

**12時** 林道まで降りて昼食。小野沢さんが沢沿いで鹿と猪の頭蓋骨を見つけてきた。持ち帰るとい。このチエンソーアーティストのモチベーションになったのかな?

**1時** 林道を戻り、神田橋を渡って三峰川対岸のカラマツ林へ。ここは沢沿いにスギ、その上にヒノキ、そして尾根下にはカラマツが植えてある。こちら木林齢は40年弱。Sr(相対幹距比)は24、26程度か。

帰り神田橋のたもとにあるに中央構造線公園に寄り露頭を見学。「気」を感じましたか?

**4時** 小屋に戻る。伐倒組も程なく戻り解散

参加者/江上さん、小野沢さん、角田さん、梶永さん、金田さん、小名川さん、佐々木さん、笹原さん、神保さん、杉村

さん、田中さん、服部さん、堀さん、増井さん、湯澤さん、小栗さん、園田さん、長坂さん、不破さん

講師/保科先生、島崎先生

スタッフ/川島、後藤、早川



猪、鹿、鹿かな?

卒業生から  
木の家の見学会のお知らせ

竹内 恵子

来る一月二十二日(土)二十三日(日)、地域材100%使用、板倉工法の家の見学会を行います。施主は昨秋の集中コースに参加された藤田さんで、施主参加の家作りを奨めてきた私にとっても驚くほどの家族参加型の家となりました。春、子供たちと共に切った間伐材



次回以降の予定

通年コース第17回(最終回) きのこの菌打ち 3月5日(土)

今年度の最終回です。ナラなどの原木にシイタケ、ナメコなどの菌を植えてみましょう。両先生の担当です。

8時30分に島崎先生の山小屋集合。この時期道路に積雪、凍結などの場合がありまので車でお見えの方は事務局などに状況をお確かめ下さい。

は一部の柱と手すりに使われ、タイル張りやオイル塗装、内部の壁塗り、ペンチ付きウッドデッキなども施工主施工部分です。また藤田さんが始めて挑戦した電気工事には、碍子が使われ、こだわりの露出配線が目を引きま

# リレー通信

「森と山と私」

服部 亮平



こんにちは。七月十七、十八日の間伐から通年コースに参加した服部亮平です。原稿がなかなか出来上がり、事務局の早川さんには



大変ご迷惑をおかけしました。まず最初にお詫びします。

この原稿を書くにあたって、どのようなことを書くか思い悩んだのですが、結局、浅学の私にとって気の利いた内容は望むべくもなく、五十二歳の現在に至るまでの山や森との関わりと、今までに受けた講習の感想を書いてみることにしました。

### 少年時代～学生時代

私は、生まれてから長野に移り住むまでの二十年間を、兵庫県神戸市で過ごしました。住んでいたところは、神戸市の市街地の住宅密集地でしたが、ご存知のように、神戸市の市街地の北側は六甲山系の山々が東西に連なり、山は比較的身近な遊び場でした。しかしながら、私の小学生時代は、戦後の混乱

期がようやく収束し始めた時期で、山で自殺する人が続出する時代でもありました。そのため、山へよく遊びに行く友達も多くは、自殺死体の第一発見者の経験があり(幸いにして私はその経験がない)、山はちよつと怖い存在でもありました。

中学にはいり、学生時代ワンダーフォーゲル部であった担任の影響で、山は遊びの場から登山の対象へと変わっていきました。サッカーに明け暮れた高校時代を経て、浪人時代に再び登山を始め、結局信州大学森林工学科に入学しました。ここで、恥を承知でお断りしなければならぬのですが、不勉強な私である為、森林全般に関する大学時代の知識は、今となつては皆無に近い状態です。島崎先生スミマセン。

境や防災面からもとらえようとすると考え方も、広まり始めたのではないかと思えます。また、既に一般の林業地は採算性に於いて成り立ちが困難になりつつあり、北山杉のように、密植と集約的に特化した一部の林業地のみが、辛うじて生産性を維持できた時代であったようです。四年間の学生時代を通じてスキー山岳部に属していましたが、今から振り返ってみると、岩場や樹林帯を越えた高山帯のみを目指し、樹林帯は単なるアプローチとしか考えず、そこでの生態系の営みなど目もくれず、ひたすら高所を目指して通過していただくだけであつたと思います。

### 長野に就職してから

私は昭和五十一年から今年の六月まで、長野市にある建設コンサルタント会社に勤務してまいりました。そこでは測量を始めとして、環境調査・地形地質調査・公園計画・土木測量設計・区画整理等さまざまな業務を行っていました。測量に関していえば、視通線上の樹木は作業の支障となり、伐採して地権者に対して補償しなければなりません。今考えてみると、測量が主な業務であつた若いころには、受け口(らしきもの)は切るのですがつるの役割は全く念頭になく、思わぬ

方向に倒れたり、登つて枝落としていたり木を根元から切られたり、掛かり木の上に登り、体重を掛けて揺すつて一緒に落ちたり、全く安全管理が成つてなかつたと思えます。

斜面災害に関する地形地質調査において、形が細く樹高ばかりが高い根張りの弱い樹林は、風で煽られた結果却つて表層崩壊の要因となる可能性も指摘されており、場合によっては伐採することもあります。このような樹林地が増加しているのも、憂慮される状況です。

全くのお遊びで恐縮なのですが、私は十五年前から山スキーの同人会に参加しています。スキーで下る時、間伐されてない植林地は樹間が狭く滑り辛い。先日見学させてもらった保科先生の山くらしいの密度の樹林地だと丁度良いと思いました。

### 通年コースを受講して

七月十四日島崎先生の小屋を訪れた際、私はとりあえずKOA森林塾に参加することにしました。幸い早川さんも近くで作業しておられたので、その日のうちに入塾手続きをし、七月十七、十八日の間伐から参加することが出来ました。それから、十一月二十七、二十八日の炭焼き・復習まで、多くのことを

楽しく学ぶことができました。

チェーンソーを使つての伐倒は、集中コースも含めて三回経験しましたが、まだまだ理屈通りには実践できません。ただ、基本事項や安全に対する心がけに関しては習得できたので、今後の実践の積み重ねが大事だと思います。ぶり縄を使つての木登り、枝打ちでは、年のせいか思つたより体が動かず、苦労しました。ロギングトラクター・キャタトラ・ひつぱりだこの操作は楽しいものでした。プロット調査等による森林状態の判定およびその後の施業計画もさわりに触れただけで、まだまだです。その他にも多くのことを体験させてもらいましたが、すべてにおいて経験を積み重ねればまだまだものにしたとはいえませんが、森の仕事の奥深さを知つただけ、といつたところが現状だと思つています。あと残すところ三月のきのこの菌うちだけとなりましたが、私の場合通年コースの四、六月分を残しているし、上述のように一度やったことでも何度も経験を積んでこそ身につくと感じました。今後も機会を作つて参加したいと思つています。で、宜しくお願ひします。



# リレー通信



隣に樹が...

河内 憲子

世の中には間違いない、最低でも二通りの人間がいる。私は固くそう信じています。



名古屋市内の比較的閑静な住宅地にある私の家の小さな庭、二階の窓に立つと、地面が見えない、まるで樹の

海です。(鳥崎先生に叱られそうな込み過ぎ、植え過ぎの私のささやかな森です)それを眺めていると、何時までもそうしていたい...と思いません。飽きないのです。森や木を生活の糧にしてみえる方達にしてみれば、あきれられるような、申し訳ないような話なのですが。

森林塾に参加させていただきつつは、「森に住む」ことになったからです。若い時代生活の糧である仕事につく為に、懸命に勉強し、資格をとる、子育ての為に、絵を描く為に、スポーツの為に...考えてみれば、人生は勉強の連続です。本当にそのことに心惹かれ取り組んでいくならば、学ばなければいけないのではありません。その理由は簡単です。相手に対してまじめな気持、謙虚な気持を持って接しなければ、相手が本当の姿を見せてくれる事はありません。得ないと思うからです。

かかれて、集中塾の三日間は始まりました。木の高さや径を計る、木の名前や込み具合を知る、どの木を残し、どの木を切る、そしてその森の全体を推し量る。それらはどれも、今まで私が知っていた森や木の別の面を知る作業でした。そんな現実の楽しい森の作業と、その後待っていた久し振りの数学!!とを結びつけるのに、計算機片手に悪戦苦闘した初日。初めて触り、初めて持つチェーンソーの重さ、操作の仕方、持ち方、姿勢など、ひとつひとつ科学的に分析して下さる後藤先生の教えに、どうしてもついていけない私の腕と体。丸太切りで、初めて切った木の香しさ。伐倒の手順に従い、木の周りを何回か廻り、木を見上げて、その傾きや枝具合の観察、木と対話した時間、「本当に私があなたを切っても...」というような迷いもありました。受け口、つる、追いつ、慣れない専門用語と、慣れない機械に振り回されて、おろおろしながらも、どろどろと音を立てて倒れていった、私の木。

実はこれまでも、勉強の為に、少しづつ、いろいろな方から様々に教えを受けてきました。今回森林塾では、初歩から手ほどきを受けたのですが、木や森をみる目のあつたかさのようなものを感じさせてもらいました。特に鳥崎先生、保科先生の森を語る時のお顔が印象的で、心に残ります(一日目の交流会で、お酒を豪快に飲みながらの四方山話でした)。

## コラム

去る、十月十六、十七日の塾の後に来た台風二十三号は各地に大きな被害をもたらしました。ここ伊那でも、風はさほど吹かなかつたものの、雨はかなり降りました。私の住む地区でも夜放送で、「過去一番災害の恐れが高まっています。各人の判断で自主避難してください。」という放送が流れたくらいです。

そしてこの雨の後、森林塾で作った歩道に至る林道が流されてしまいました。普段は小さな沢なのですが、また小黒川のキャンプ場では土石流が発生して一帯は土砂で埋まってしまい、テントサイトはなくなってしまうました。今回たいしたニュースにもならなかったのですが、これが込み合う週末だったらと思うとぞっとします。それに、今年はこのキャンプ場を使われる塾生の方も多かったのです、この土石流にあわずに済んだのは幸運だったと思います。

## おわりに

西春近の山林にヒノキを植えたのはほんの少し前だと思っていたのに、通年コースの炭焼き忘年会も済んでもう十二月になってしまいました。次回は最終回のきのこ園うちです。

KOA森林塾が始まった平成六年からずっと講師を勤めていただいた保科先生と鳥崎先生が今年度限りでご勇退される事になりました。当初、数年間程度という事をお願いしていたのですが、区切りの十年目も過ぎ、十一年目の今年も無理を言っておいでいただいたしまいました。

十七年度は早川が講師を勤めさせていただく予定です。先生方のお教えを引き継いで、インストラクターや塾生の皆さんにもご協力をお願いし、楽しく充実した実践を行っていききたいと思っております。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp

